強い信念と自覚をもって運動に邁進

令和６年度　幹部研修会が開催される

２月13日、千代田区の星陵会館で「全日本同和会　令和６年度　幹部研修会」が開催された。全国各地から幹部や指導者が結集し、東京都連からは古賀会長をはじめ多くの役員が研修会に臨んだ。

意見発表では、地域差別や結婚差別をはじめ、隣保館での活動や、学校教育における様々な視点から考察された問題が取り上げられ、地域における積極的な活動と同和問題の本質について課題が提示された研修会となった。

研修会は午前10時30分、石戸俊也全国教育対策副委員長（茨城県連会長）の司会で開幕した。

開会の挨拶で山本良治全国副会長（埼玉県連会長）は、ここ数年はコロナ禍の影響を受け、十分な運動が出来ずにいたと言わざるを得ません。我々は運動団体として、真摯に同和問題に取り組み、これまで積み重ねてきた成果を後退させることなく、一段と運動を活性化させなければなりません。未だに同和問題に対する差別や偏見はなくならず、この研修会の成果を運動の糧とし、同和問題の完全解決、そしてあらゆる差別を許さないという毅然とした態度で、企業、行政、一般市民の皆様と一体となり、教育・啓発活動を今以上に推進しなければならない、と訴えた。

山本良治全国副会長

松尾信悟全国会長は挨拶で、近年インターネットによる人権侵害や、様々なハラスメントが取り沙汰されていることに言及、複雑に変化する社会情勢において起こる差別や偏見に対し、強い信念と自覚をもって解決しなければならない、と訴えた（別欄に要約掲載）。

来賓挨拶では、山口壮衆議院議員が、同和問題の取り組みに対しインターネットに心無い書き込みが続いていることに言及、部落地名総鑑の存在について、法務省、総務省があらゆる手段を用いて削除を行っているとし、「部落差別解消推進法」のみならず、昨年施行された「情報流通プラットフォーム対処法」を活用し、全日本同和会の皆さん一人ひとりのご意見を大事にし、今後も強く緊密な関係を保ってゆくとし、「日本がこれからの世界をどのように幸せに出来るか、今日お集まりの全日本同和会の皆さんのご意見をしっかり受け止めて、よりよい世界をつくって参りたい、と研修会開催を祝した。

山口壮衆議院議員

来賓紹介、祝電披露に続き基調講演が行われた。本年度は、ジャーナリストの石川結貴氏による『孤立と虐待のない街づくり～見えざる貧困と無縁化する子どもたちを支えるために～』と題し、様々な事例や質疑を交え、一時間に亘り講演がなされた。

基調講演に続き、意見発表が行われた。今年度は、大分県連合会と山口県連合会によって行われ、各県での活動の様子が述べられた（１面～２面に大分県は次号以降に掲載、山口県連の意見発表を受けて、桑原正則全国副会長（神奈川県連会長）が、自身の経験や神奈川県での取り組みを交え、総評を行った。

桑原正則全国副会長

終わりに、荒井正記全国総務委員長（大阪府連会長）が閉会の辞で「本日の研修会において、部落差別の解消を目指して、より一層運動に邁進する決意を改めて固めることが出来たと確信した」と述べ、研修会は閉会した。

荒井正記全国総務委員長

■全国会長挨拶　松尾 信悟 全国会長

近年は、急激な社会情勢の変化などにより、インターネットによる人権侵害事件や様々なハラスメント行為等がクローズアップされており、刻一刻と複雑に変化する現代社会においては、様々な人権問題に対処する手法の重要性が高まっています。同和問題をはじめ、様々な人権問題の早期解決には、お互いが理解し合ってゆく共生社会の実現が不可欠です。日頃から同和問題をはじめとするあらゆる差別の解決に向け、強い信念と高い誇りをもって運動を継続してゆかなければなりません。

（要旨）

東京
東京都連機関紙
発行所　全日本同和会東京都連合会
〒169-0074
東京都新宿区北新宿1-1-15 リービル5　5階
TEL（03）6279-3407
FAX（03）6279-3437
URL http://www.zennihondouwakai-tokyotoren.jp/
発行責任者：全日本同和会東京都連合会
編集責任者：畠山　勝彦
定価　年間　4,000円（振込料別）
振込先　みずほ銀行　大泉支店
普通　1399198

当会についてのお問い合わせは東京都連または下記本部まで
全日本同和会全国本部
〒100-0014
東京都千代田区永田町 2-17-10
サンハイム永田町 502 号
TEL（03）3580-0367
FAX（03）3580-7304

令和六年度 全日本同和会 幹部研修会（要約）
意見発表

大分県連合会　中西 沙織 氏

いまだに続く隠れた差別、それが部落差別

「部落差別解消推進法」が施行されて8年が過ぎようとしています。インターネット上では、いまだ深刻な人権侵害が後を絶つことなく続き、ＳＮＳなど相手の顔の見えない、自分が書き込んでも特定できないところでは、差別発言が毎日のようにされています。

２０２１年の1月2日に爆サイというサイトで私の地域の地区名を記入した差別が発生していました。さらに、1月10日には、あるお店の誹謗中傷の中に被差別部落の人をさげすむときに使われていた言葉で、差別発言も書かれていました。

２０２２年12月にもかかわってはいけない人の特徴というスレに、えた部落の嫌われ者や被差別部落民と記入されています。昨年の5月15日、この大分県のある地域の建物に差別落書きがされていました。

今年6月大阪市で、市職員が同僚に対し部落差別発言をしていたという大変嘆かわしい事件も起きています。さらに三重県の小学校教諭の夫婦による土地差別。これは自分が住もうと思って買った土地が被差別部落であったとして買戻しを迫った差別です。子どもたちに差別はいけないことと教える立場である教師さえも正しく学んでいなければこうやって差別をしてしまうんです。ある地区の公園のバスケットゴールが老化したため市に要求をし、一年かかって整備の見直しと新しいバスケットゴールの設置が決まった場所があります。新しくすることで今度から鍵をかけると市は言ってきました。誰もが使える市民のための公園なのに、鍵をつけるというのです。当然おかしいことであると伝え、鍵をなぜつけるのかを聞くと「そこの地区は治安が悪いから」治安が悪いとはどういうことなのかと聞くと「刺青をしている人が多く住んでいて、刺青を入れているものは、やくざだから治安が悪い」との答えでした。刺青を入れているからやくざ、そこの地域は治安が悪いなんて差別と偏見でしかありません。言った本人はそれが差別発言と分かっていない状態でもありました。差別解消を推進していかなくてはならない市が、差別発言を平気でしている現状を目の当たりにしました。その後日の話し合いでは、その発言自体をボイスレコーダーなどに録っていないこともあり、「そんな発言は一切していない」と否定され、そのことについての詳しい話し合いは持つことができませんでした。とても悔しい思いです。

（2面へ続く）